

平成29年度第3回野菜需給・価格情報委員会の意見概要

1 日時

平成30年3月22日（木）13:30～15:30

2 場所

独立行政法人農畜産業振興機構 南館1階会議室

3 概要

「平成29年産秋冬野菜の需給・価格の実績」（資料1）の説明の後、3月16日開催の消費分科会で出された春野菜の需要見通し等を踏まえて意見交換を行い、「平成30年産春野菜の需給・価格の見通し」（資料4）について藤島座長が取りまとめ、機構HPで公表することについて各委員の了承を得た。

平成30年産春野菜の需給・価格の見通し等に関する委員からの意見の概要は以下のとおり。

（1）春キャベツ（4～6月）

① 供給見通し

- ・作付面積：千葉・神奈川は前年比100%。愛知は97%。
- ・生育状況：昨秋の天候不順やその後の低温・干ばつで生育は遅延傾向であったが、3月に入ってから気温上昇で生育は回復傾向。
- ・出荷開始：千葉・神奈川で3月下旬、愛知で2月中旬。
- ・出荷量は、生育遅延が見られる産地が多かったものの、3月に入ってから生育は回復傾向。出荷開始や増量期は平年よりやや遅れる産地もあるが、全体の数量は概ね平年並みを見込む。
- ・国産冷蔵庫の在庫量が少ないが、輸入物で手当される可能性。

② 需要・価格見通し

- ・価格高騰による買い控え後の反動が期待できることや、カットサラダ用の寒玉系需要に加え、気温上昇とともに売場における春系の人気が高まることから、需要増加を見込む。
- ・出荷期間を通じて、出荷量は平年並みであることから、価格は平年並みを見込む。

（2）春だいこん（4～6月）

① 供給見通し

- ・作付面積：北海道で前年比104%、千葉で100%、長崎で112%。
長崎は、天候不順で秋冬作の作付けが出来ず春作の播種が平年より早く行われたこともあり面積増の見込み。
- ・生育状況：播種は平年より早く開始されたが、低温・干ばつの影響や直近の寒波もあり生育はやや遅れ気味の産地が多い。
- ・出荷開始：北海道で5月上旬、千葉・長崎で3月上旬。
- ・これまでの生育遅延が直近の天候状況で回復傾向となり、各産地とも順調な出荷が見込まれることから、出荷量は平年をやや上回ると見込む。

② 需要・価格見通し

- 出荷が回復傾向にあり、価格が落ち着くと見込まれることや、サラダ需要は見込めるものの、基本的には需要期でないことから、需要は平年並みを見込む。
- ・加工需要等は、国産高騰の影響で中国産の使用量が増加している。

- ・需要は平年並みが見込まれる中で、出荷期間を通じて、出荷は平年をやや上回ることから、価格は平年をやや下回ると見込む。
ただし、生育の回復が進まない場合には、出荷及び価格は平年並みの可能性。

(3) たまねぎ（4～6月）

① 供給見通し

- ・作付面積：兵庫で100%、佐賀は106%（佐賀はベト病等の影響で面積が減少傾向であったが、平年並みの作付規模に回復しつつある。）
- ・生育状況：府県産は定植期に天候に恵まれたことから年内に定植が進んだものの、年明けの寒波の影響もあり、九州産地を中心に生育は遅れ気味となっている。
- ・出荷開始：北海道は6月まで貯蔵物の残量出荷。兵庫は極早生・早生が5月上旬、中生が下旬から出荷。佐賀は極早生が3月下旬、早生が4月下旬、中生が5月下旬から開始。
- ・北海道の残量は概ね平年並みの見通し。府県産は低温・干ばつの影響で極早生、早生の生育は平年よりも遅延傾向。今後の天候にもよるが、出荷量は平年並みか平年をやや下回ると見込む。

② 需要・価格見通し

- ・たまねぎを使用したカットサラダの販売が微増傾向にあるものの、九州産の新玉ねぎが冬場の低温により出遅れていることから、需要は平年並みを見込む。
- 加工業務用で剥き玉の使用量が増加傾向である中で輸入物の対応が主力となるが、国産の相場次第では国産を使用する動きが出る可能性。
- ・需要は平年並みが見込まれる中で、府県産は生育が遅延傾向であるものの、北海道の貯蔵が平年並みであることから、出荷及び価格は平年並みを見込む。
ただし、府県産の生育遅延が回復しない場合には、6月以降は、出荷は平年を下回り、価格は平年を上回る可能性。

(4) 春夏にんじん（4～7月）

① 供給見通し

- ・作付面積：青森・長崎で前年比100%、千葉で97%、徳島で90%。
- ・生育状況：東北を除いて各産地とも播種作業は概ね順調に行われた。年内は日照不足や低温等の影響で生育が遅れていたが、2月に入ってから天候に恵まれて生育は回復傾向となっている産地が多い。また、東北は降雪の影響で播種が遅れたため生育は遅延。
- ・出荷開始：青森で6月下旬、千葉で4月下旬、徳島で3月上旬、長崎で4月中下旬の見込み。
- ・生育は回復傾向であるものの、4月～5月は小玉傾向であることから平年並みか平年をやや下回ると見込む。その後は生育が追いつくことから、平年並みの出荷を見込む。

② 需要・価格見通し

- ・じゃがいもや、たまねぎと連動した需要は見込まれるものの、春物が冬期の低温により生育が遅れているため、需要は平年並みを見込む。
- ・加工需要では、輸入物の需要が非常に高いが、国産相場次第では、輸入物の需要が一段落する可能性もある。
- ・需要は平年並みが見込まれる中で、出荷期間を通じて、出荷は平年並みであることから、価格は平年並みを見込む。
ただし、生育の回復が進まない場合には、出荷は平年を下回り、価格は平年を上回る可能性。

(5) 春はくさい（4～6月）

① 供給見通し

- ・ 作付面積：茨城で前年比 104%、長野で 108%、長崎で 100%。
- ・ 生育状況：年内の天候不順や年明けの降雪の影響等により、定植作業の遅れや生育遅延があった。3月に入り、適度な降雨と気温上昇から、生育は回復傾向にある。長崎ではハウス作とトンネル作で切れ間が出る可能性があるが、今後の天候次第。
- ・ 出荷開始：茨城で3月下旬、長野で5月中旬。長崎はハウス作で2月上旬、トンネル作で3月中旬。
- ・ 長崎のハウス作は3月上旬で切り上がり、中旬からトンネル作の出荷開始。茨城は平年どおり5月から出荷ピークの見通し。各月とも平年を上回る出荷を見込む。

② 需要・価格見通し

- ・ 春タイプの商材で一時的に需要が伸びる可能性はあるものの、気温は高くなる予報であることから、需要は平年を下回ると見込む。
- ・ 秋冬産の不作で漬物メーカーの在庫が非常に少ない状態となっており、潜在的な需要はある状況。
- ・ 需要は平年を下回ると見込まれる中で、出荷期間を通じて、出荷は平年を上回ることから、価格は平年を下回ると見込む。
ただし、生育の回復が進まない場合には、出荷及び価格は平年並みになる可能性。

(6) 春レタス（4～5月）

① 供給見通し

- ・ 作付面積：茨城で前年比 102%、長野で 101%、兵庫で 100%。
- ・ 生育状況：他品目同様、低温や降雪の影響で生育遅延していたが、3月に入り気温が上昇し、生育が進んでいる。
- ・ 出荷開始：茨城で3月上旬、長野で4月中旬、兵庫で3月中旬。
- ・ 4月～5月は平年を上回る潤沢な出荷を見込むが、生育が進んで出荷が3月に前倒しとなれば、少なくなる可能性はある。

② 需要・価格見通し

- ・ 価格高騰による買い控え後の反動が期待できることや、気温の上昇とともにサラダ需要の伸びが期待できることから、需要増加を見込む。
- ・ 出荷期間を通じて、出荷は平年を上回ることから、価格は平年を下回ると見込む。
ただし、生育が進んで3月に出荷前倒しとなった場合には、出荷及び価格は平年並みになる可能性。

(7) きゅうり（4～6月）

① 供給見通し

- ・ 群馬、埼玉、高知、宮崎等が中心の出荷となる。
- ・ 作付面積：群馬で 98%、埼玉・高知・宮崎で 99%。
- ・ 生育状況は順調で、気温の上昇にともない潤沢な出荷が見込まれる。
- ・ 供給見通しは、各月とも平年並みか平年をやや上回ると見込む。

② 需要・価格見通し

- ・関東の主産地の生育が順調で、冬場の高値が解消されることから、需要は平年並みを見込む。
- ・秋冬期における葉物・根菜類の高騰により、きゅうりへの需要シフトがある。
- ・需要は平年並みが見込まれる中で、出荷期間を通じて、出荷は平年並みであることから、価格は平年並みを見込む。

(8) トマト（4～6月）

① 供給見通し

- ・栃木、愛知、熊本等が中心の出荷となる。
- ・作付面積：栃木で98%、愛知・熊本で100%。
- ・4月に入ると春作も本格化し、安定した出荷が見込まれる。日照が多く気温も上昇したことで生育、着色が進む見込み。
- ・生育順調のため、平年並みか平年をやや上回る出荷を見込む。

② 需要・価格見通し

- ・サラダ需要は見込めることに加え、全般的に需要は底堅く、特に完熟系トマト、高糖度系のトマト需要が伸びていることから、需要増加を見込む。
- ・需要増加が見込まれる中で、出荷期間を通じて、出荷は平年並みであることから、価格は平年並みを見込む。

(9) ねぎ（4～6月）

① 供給見通し

- ・茨城、千葉等の関東産地が中心の出荷となる。
- ・作付面積：茨城で100%、千葉で106%。
- ・年内、年明けの低温で細物が多いが、今後の気温上昇で肥大は確保される見込み。
- ・供給見通しは、4月は平年並みか平年をやや下回るが、5月以降は平年並みか平年をやや上回ると見込む。

② 需要・価格見通し

- ・薬味需要は見込めるものの、5月は端境期で出荷が多くない見込みであることから、需要は平年並みを見込む。
- ・加工需要においては、今冬の高騰で中国産需要が非常に高くなっており、今後も一定以上の需要はある。
- ・需要は平年並みが見込まれる中で、出荷期間を通じて、出荷は平年並みであることから、価格は平年並みを見込む。

(10) その他、春野菜全体の主な消費の動向等

① 昨年10月の長雨・台風の影響により、キャベツ、だいこん、はくさい、にんじんの価格が高水準となり長期化しておりますが、

・ 生鮮野菜の売場において値頃感をだすための対応（輸入野菜、国産の代替野菜、ホールから1/2カットにして販売、たまねぎの特売等）など、どのように販売方法を工夫していますか。

→ キャベツは玉・半切・1/4切の3ライン、大根も1本・半切・1/4、白菜は例年は半切・1/4切+1/8切の品揃え実施。

→ 大型野菜の異常高値の時は丸ごとの動きは悪く、1/2カット、1/4カットにシフトしてしのいだ。

→ 雪害などがあり手配に苦労したが、届けてもらってありがたいとの声が相次ぐ。1/2カットも配置。

→ 輸入代替えは行わない。

→ 出荷基準を緩和して受注にこたえる対応をした。

→ セット（外見がやや悪いものも販売）に対する苦情はない。

→ キャベツでの輸入対応を予定している。

→ 価格が一定である豆苗を販売した。

→ 高騰でキャベツを買い控えていた消費者をターゲットに、惣菜コーナーで千切りキャベツ等の量り売りをした。

→ 1/2、1/4カットでの販売

キャベツは通常は1玉はLサイズを販売しているが、価格を抑えるためにMサイズを販売するなど規格も変更している。

→ ブロッコリー、ズッキーニ、いんげんなど輸入野菜を代替え販売。

・ 前記の販売方法の工夫に対して消費者の反応はどうか。

→ 価格帯に応じて選ぶ消費者もいるが、やはり「調理に必要な量」があるため、全員が小分けした物が必要では無い。

→ 今時の消費者は少量希望であり、1/2CT、1/4CTは買い慣れており、使う分だけ購入する。

→ 消費者には冷静な購買を呼びかけている。以前のような、注文の集中はみられない。

→ 野菜などを予約注文して購入する人が増加している。

→ 豆苗は消費者の購入量が多いため通常の3倍となった。

→ 千切りキャベツ等の量り売りは好評だった。

→ 価格高騰のなかで理解されて購入されている。

→ 特売時のまとめ買いなども見受けられる

・ カット野菜及び冷凍野菜の販売状況について教えてください。

→ 特にカットレタス、千切りキャベツの供給が12~1月の動向が良く、供給に限界があつて品切れや品薄が続く。どうにか現時点で見通し立ち、今後は潤沢に供給できる。

→ これからもカット販売は人気があるので続けたい。

→ 料理セットに注文が集中しており、通常の5割増。

→ 冷凍野菜も人気上昇。買いやすい価格で旬の味が楽しめるので好評。

→ 主要野菜全体の成育不良から、調達できない品目が発生する事態になっている。

→ カット野菜の販売は好調である中で、国内産の原料不足を背景として、途中から台湾産又は中国産への変更があつた。

- カット野菜はサラダ用だけでなく、炒め物用も大きく伸長している。
- メーカー側での加工用の原料の手配も十分に出来ない状況で原料の輸入品への代替え、一部商品は納品数量の制限も発生。

② 今後、我が国は人口減少や高齢化などが進み、急激に生産・流通・消費の構造的な変化が起こり、野菜の需給・価格に影響がでてくる可能性があります。生産・流通・消費のそれぞれについて注視すべきことは具体的に何か教えて下さい。

・ 生産

- 規格の見直し。特にきゅうり、なす、トマトの階級が多すぎる。農家個人選別の手間・時間の削減、各JAの個人選別の廃止、農業法人の生産者も利用できる選果場の解放が必要。
- 生産農家の高齢化や人手不足により、今までの様な大量生産は望めず、供給不足が起こり野菜が単価高になり得る。
- 後継者は育ってきている。後継者どうしの交流会や技術指導、農法研究が進んでいる。
- 経営を断念した農地を後継者や新規就農者が耕作しているケースが増えており、安い農機具などの提供や販売先の確保での支援ができないか。
- 栽培面積確保につながる一貫体系の確立を進める。
- 供給不足は深刻であり、就農者を増やすことが大切。
重油高で施設内の加温を控えたり、生産が厳しい。
- 農業生産法人の増加と大規模生産農家による供給。
外食・中食への供給拡大による、市場相場への影響。

・ 流通

- 自社の物流がどこまで歩み寄るか、どこで自社の商品を集荷する際に集約するか、配下するセンター以外に「自社の集荷場」となる拠点ができれば、ドライバー不足に対するアクションは起こしていけると考える。
- 流通の変化によりコスト高は否めない。
- 流通は産地同士の共同物流が進んでいる。
- 共同物流の拡大・推進。
- 配送車が確保できないので、注文額の少ない納品先は配送が遅れがちになる。
- 流通コスト増加による市場集約や価格の上昇。

・ 消費

- ネットビジネスが拡大され、通信販売やコープの需要があり、スーパーマーケットに自らの足で出向くこと自体が減少していく。配送費込みの価格で供給される通販の魅力は消費者の時間も買えるため、メリットが大きいものになっていく。
- 消費の多様化は進み、スーパーや専門店のシェアを脅かす時代は来る。
- SDGs（持続可能な開発目標）アワード受賞で国内農業推進、環境保全型農業、有機農業の推進は追い風。どうせ購入するなら環境や地域に配慮された安全な農産物を購入したい層が増えている。
- 産地でSDGsについて学習したいとのことで講演要請が相次いでいる。
- キット商品の拡大、鮮度保持できる商品及び商品化（ロングライフ化）。
- 65才～75才アクティブシニア層への対応。
キーワードは「簡素化」、「経済性」、「健康」。
- 都市圏は同業他社やネット通販との競争が年々厳しくなっていることから、地方での

利益率が比較的高くなっている。

→ 人件費の上昇に伴い惣菜の店頭価格を上げると需要がついてこない。

→ ホールではなく、カット野菜や冷凍食品への需要シフト。

③ 今春の注目すべき野菜

→ ブロッコリー、ピーマン。

→ カリフラワー等、サラダ食材が台頭してくる。

→ アスパラ。年々人気上昇しているが出荷量は少ない。

→ 豆類 絹さや、いんげん、スナップエンドウなど九州の雪害で影響が心配。需要は上昇している。

→ 菜花。

→ たけのこなどの季節商材も人気上昇。

→ 豆苗、マッシュルーム。